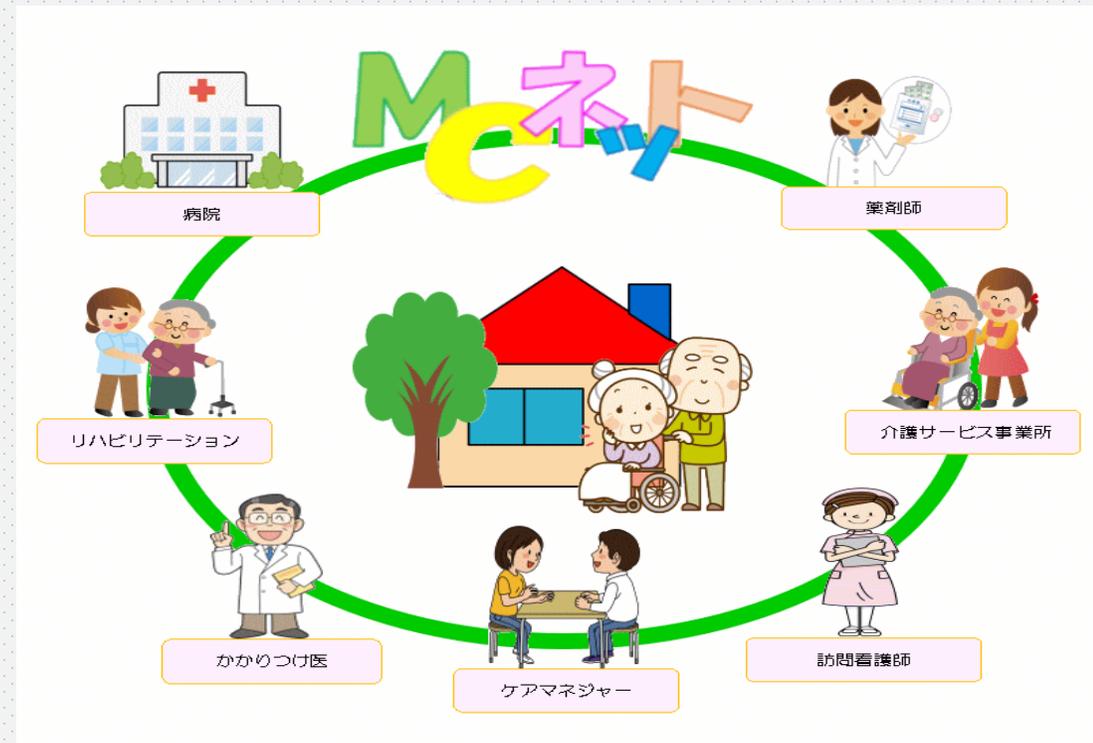


# ICT連携部会

29年度～31年度の活動報告



# Plan

## ICTによる情報共有ツール普及3年間の取り組み

### 目標

上越・妙高地域の情報共有の標準連携ツールとして、  
介護事業所・医療機関の加入率100%を目指し、  
多職種協働により在宅生活を支える

Do

## 【平成29年度の取り組み】

### 実態把握と周知

- 実態把握アンケートをふまえた事業所へ加入呼び掛け
- MCネット加入のおすすめ作成
- MCネット体験会を(Dr2回 薬剤師1回 介護事業8回)計11回開催
- システム改良について業者と協議

Do

【平成30年度の取り組み】

**体験型研修と情報提供**

- MCネット塾 10回(83名参加)開催
- MCネットかわら版の発行(年4回)
- 本人家族向けリーフレット作成・運用
- MCネット活用塾(1回28人)開催
- ケアマネジャー・訪問看護への啓発
- ICT連携部会の取り組みについてアンケート

Do

## 【令和元年度の取り組み】

### 活用促進と運用整備

- ・MCネット活用塾（事例を用いた実演） 5回 44名
  - ・多職種連携推進・研修部会とのコラボレーション
    - 多職種連携研修会でのMCネット説明 33名
    - 多職種連携研修会受講者フォローアップ研修会でのMCネット活用塾 34名
  - ・MCネットかわら版（3回）
  - ・未加入事業所への加入呼び掛け
  - ・ICT連携部会の取り組みについてアンケート
  - ・セキュリティー対策及びMCネット利用時のルール徹底
- MCネット利用手引き作成・運用



# Do

## 【3年間の取り組み継続】

資料や写真の添付、日程調整など、いろいろな使い方があることを知りました！



加入したけれど、活用していなかったなので、これから使っていきます！

Check  
【MCネット加入事業所数(件)】

平成29年 4月	平成30年 3月	平成31年 3月	令和2年 1月
131	200	318	325

# Check 【加入率】

	平成29年 4月	平成30年 3月	平成31年 3月	令和2年 1月	加入事業所/事業所中
地域包括支 援センター	5%	38.1%	91.7%	<b>91.7%</b>	11/12
居宅介護 支援事業所	26.7%	46.5%	58.0%	<b>69.0%</b>	58/84
訪問看護 事業所	14.8%	85.7%	92.9%	<b>92.9%</b>	13/14

# Check

## 【令和元年度取り組みアンケート結果】

### MCネットの活用状況やICT連携部会の取り組みについて

アンケートを実施し、以下の点について評価した。

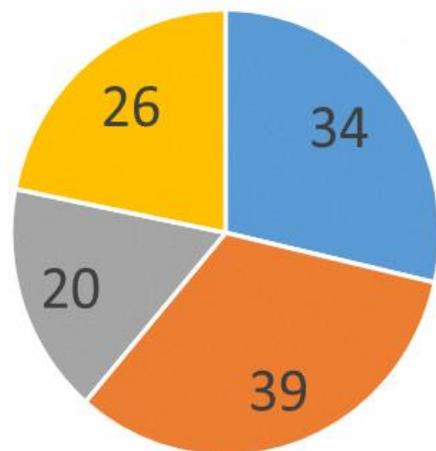
対象者：MCネット加入の介護支援専門員 199名

地域包括支援センター職員 46名

訪問看護ステーション 14事業所

- ①MCネット加入後の有効活用に繋がっているか？
- ②ICT連携部会での取り組みは有効に活用されているか？
- ③セキュリティー対策は行われているか？

# MCネットの活用状況について (回答数: 119)



■ 毎日 ■ 2~3日に1回程度 ■ 1週間に1回程度 ■ その他

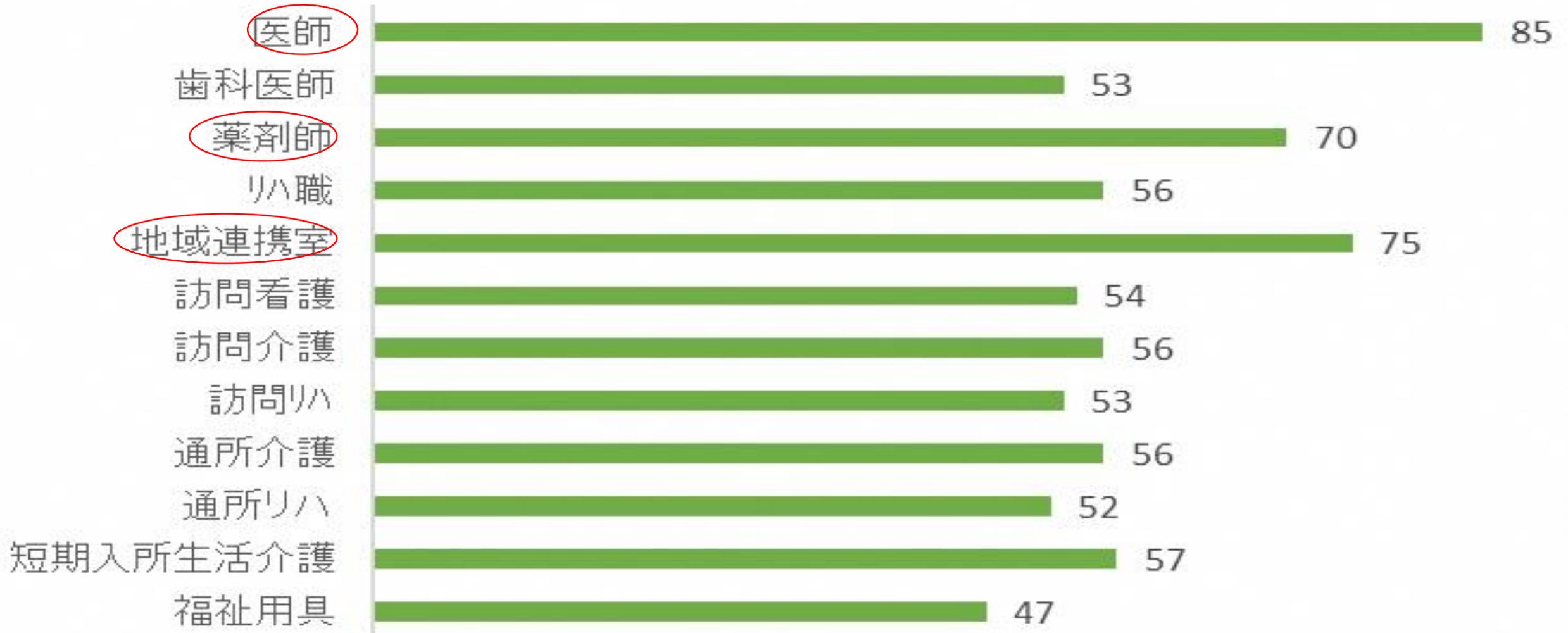
## 利用頻度が少ない理由(主なもの)

- ・状態変化がある場合には使う頻度は多くなるが、状態が落ちついているとあまり利用しない。
- ・サービス利用が少ない利用者に関しては、今まで通りの電話連絡等が楽なため利用していない。
- ・未加入事業所があると別の方法での連絡が必要で手間となるため、利用に至っていない。
- ・主治医や利用している事業所が加入していない。

考察: ①MCネットは必要に応じて利用している状況はみられるが、3割近くはあまり利用されていないと考えられる。

②利用者の状態変化時に限らず、日頃からMCネットを活用し連携を図っていけるように意識付けを図っていく必要がある。

# 今後、MCネットで連携していきたい事業所



# ICT連携部会の取組みについて (回答数:119)

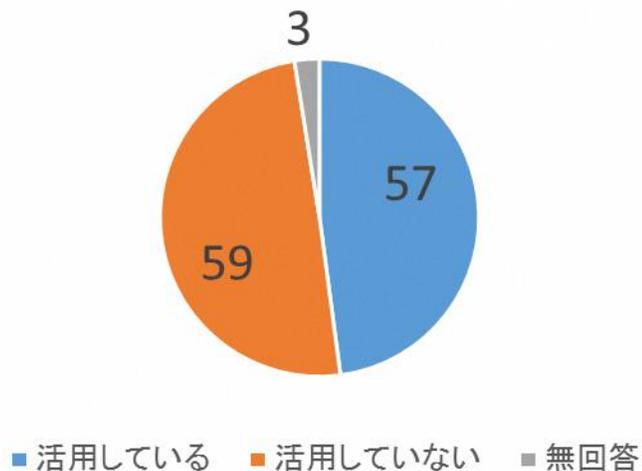
MCネットかわらばんについて



ご利用者・ご家族向けのリーフレットの活用状況



MCネット利用の手引きの活用状況



## 考察

- ①「MCネットかわらばん」は多くの加入者に読まれている。
- ②「MCネット利用の手引き」は半数近くが活用している。
- ③ご利用者やご家族向けリーフレットの活用は増えているものと考えられる。
- ④具体的な活用事例や活かせる情報を載せ、多くの方に読んでいただくことで、MCネットの活用促進につなげていく必要がある。

# セキュリティ対策について (回答数:119)



## 事業所で行っているセキュリティ対策

- ・パソコンログインのパスワードを設定し、担当者及び管理者のみがパソコンを使用できる。
- ・MCネットは決められたパソコンのみで閲覧し、他のパソコンでは見ることはできない。
- ・時間を決めてログインして内容をチェックする。
- ・一定時間アクセスしないと自動でログアウトする。
- ・USBメモリーの使用禁止

## 考察:

- ①各事業所ともセキュリティ対策自体はとられているが、MCネットの運用規定や利用の手引きを読んでいる加入者も多い。
- ②加入者には運用規定や利用の手引きを必ず一読していただけるよう働きかけていくとともに、加入者自身にセキュリティ対策を確実に講じていただけるよう、いろいろな場を活用して意識喚起していく必要がある。

# Act

## 次年度への継続事項

- 加入、活用促進のための取組を継続
- 医師・薬剤師・病院（連携室等）との連携推進
- 「上越地域の情報共有ツールであること」の周知
- 活用状況の定量的な評価指標の評価を今後も継続
- 実稼働登録者数の整理のために、退職者・法人内異動等における変更届の提出など（事業所管理者・使用者の責務）の徹底
- 今後は、当部会活動を在宅医療推進センターに委ねることを検討



**<ICT連携部会>**

部会長	横田	麻理子
副部会長	江口	義幸
委員	揚石	義夫
	藤原	敬人
	石田	浩二
	太田	博文

ご清聴ありがとうございました。

# 令和元年度 普及啓発部会取組報告

部会長	森橋 恵子
副部会長	川田 智美
委員	五十嵐 靖雄
	渡辺 裕美
	坂本 廣一朗
	柴又 良太
	齊藤 拓志

## 令和元年度取組方針

＜目標＞ 医療・介護が必要になっても、在宅で支援を受けながら生活することや、在宅生活の良さについて知る機会とし、自分事として考えることができる普及啓発を目指す

### ＜取組方針＞

- ・普及啓発用スライドの活用
  - ①各市の市民向け講座で活用する
  - ②職能団体内および職能団体が行う市民向け啓発講座で活用する
- ・普及啓発用スライドを「がんぎネット」にアップし活用を促進
- ・講座後のアンケート結果に基づき、啓発活動の方向性を検討

## 〈H29年度〉

1. 職能団体で行っている市民への普及啓発の情報収集
2. 福祉・介護・健康フェアin上越での普及啓発の実施  
(H29.10.28 オーレンプラザ)
  - ・市民に対し、ステージイベントとして座談会形式で実施  
内容:介護が必要になる原因  
地域包括支援センターに相談する  
早いうちから介護について家族と話す等、心構えを持つ

# Do <H30年度> 1. 普及啓発用のスライド作成

## 福祉・介護・健康フェアin上越

「住み慣れた地域で暮らし  
続けるために…」  
今、私たちができること

上越市・妙高市  
在宅医療・介護連携推進協議会  
普及啓発部会

1



## 本日の流れ

1 在宅医療と介護が必要になったとき  
のために知っておきたいこと

2 いざというときのために、日頃から  
心掛けたいこと

3

## 要介護状態になる要因

### 1 脳卒中

○生活習慣病  
糖尿病、高血圧症、脂質異常症、  
メタボリックシンドロームなど

### 2 運動器の病気

○骨折、関節リウマチ、変形性関節症  
脊柱管狭窄症など

ロコモティブ  
シンドローム

サルコペニア  
(筋肉量の低下)

フレイル  
(心身の活力低下)

### 3 認知症

早期診断が  
重要！

→原因によって対応が異なる！

一人暮らしをしている  
近所の花子さん、最近  
調子が悪いみたいで、  
あまり見かけないし、  
家事も思うようにでき  
なくなったみたい。

花子さん、息子さんたち  
も近くにいないし、買い物  
とか病院とかどうしてる  
んだろうね。  
病院にはちゃんと通って  
いるのかな。

6

みなさんは、

自分や家族が  
在宅医療や介護を必要とする  
状態になったとき、  
どこに相談しますか？

家族・子ども？

かかりつけ医？

ご近所のかた？  
民生委員？

11

在宅医療や介護が必要  
になったら、  
まずここに相談！

**地域包括支援センター**

10

医療

介護

住み慣れたすまい

生活支援

介護予防

11

## 在宅医療や介護が必要になってもこの地域で暮らし続ける！

訪問診療で主治医が診療をしているときの様子



21

## 在宅医療や介護が必要になってもこの地域で暮らし続ける！

訪問看護の様子



14

## 在宅医療や介護が必要になってもこの地域で暮らし続ける！

在宅歯科衛生士の訪問の様子



誤嚥性肺炎の改善・予防にも効果的ですよ！

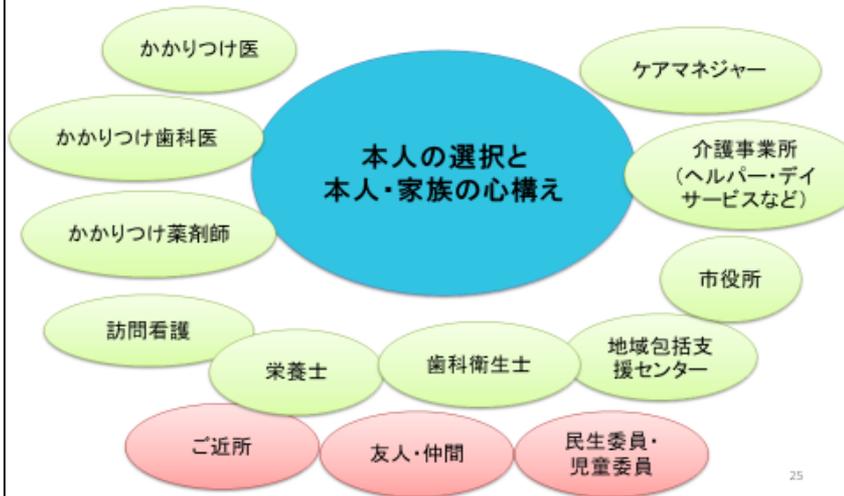
歯科衛生士がかかりつけ歯科医の指示のもと、自宅に訪問し、口腔清掃や口腔リハビリなどの専門的口腔ケアを実施しています。

## 在宅医療や介護が必要になってもこの地域で暮らし続ける！

デイサービスでの様子



医療と介護を必要としながらも在宅で生活できる



みなさんは、  
自分が在宅医療や介護が必要になったとき  
どのように過ごしたいですか？  
それを、まわりの人に伝えていますか？

～みなさんで考えてみましょう～

19

## 本日のまとめ

### 1 在宅医療や介護が必要になったときのた めに知っておきたいこと

➡ 健康や介護のこと、生活の中で  
困ったことや心配なことがあれば、  
地域包括支援センターに相談！

36

## 本日のまとめ

### 2 いざというときのために、日頃から 心掛けたいこと

➡ 在宅医療や介護が必要になるときに  
備えて、自分がどう生活したいか  
を考え、まわりの人と共有しておく。

37



## 〈H30年度〉 2. 市民啓発講座での啓発活動

平成30年10月30日(火)10:00～11:30  
すこやかに老いるための市民講座



柴又薬剤師と金井ケアマネで  
掛け合いを入れながら  
進行しました。



金井ケアマネより、  
実際の症例を紹介しながら、  
自分事として参加者みなさんで  
考える時間を共有しました。

会場：柿崎コミュニティプラザ

# 平成30年10月31日(水)13:30～15:00 在宅介護を応援するカフェ



近所の身近にある話として、寸劇をしました。



参加者同士で話し合ってもらい、意見を伺いながら進行しました。

会場：上越地域医療センター病院

Do

〈R元年度〉

1. 地域包括支援センター職員研修で、シナリオの紹介とスライドの使い方についてレクチャー（R1.7.26）
2. すこやかに老いるための市民講座でのスライドの活用
  - ・28会場で講座を実施
  - ・上越市諏訪区、金谷区については部会員が啓発を実施

### 3. 令和元年10月26日(土) 14:00～15:00 福祉・介護・健康フェア2019in上越



「住み慣れた地域で暮らし続けるために、今、出来ること」をテーマにセミナーを行いました。

当日は56名の方からご参加頂き、介護が必要になる要因やいざという時のために話し合いをしておくことの大切さについて、各専門職の立場から説明を行いました。

## 4. 令和元年11月16日(土) 13:30~15:00 妙高市:まちかど・スポーツ・サロン



月1回行われているまちかどカフェの中で、講座を実施。シナリオにこだわりすぎず、部会員の日頃の業務から感じている話も多く飛び交い、和やかな雰囲気で行われました。後半の茶話会では、参加者同士が自分事として話をした姿が印象的でした。

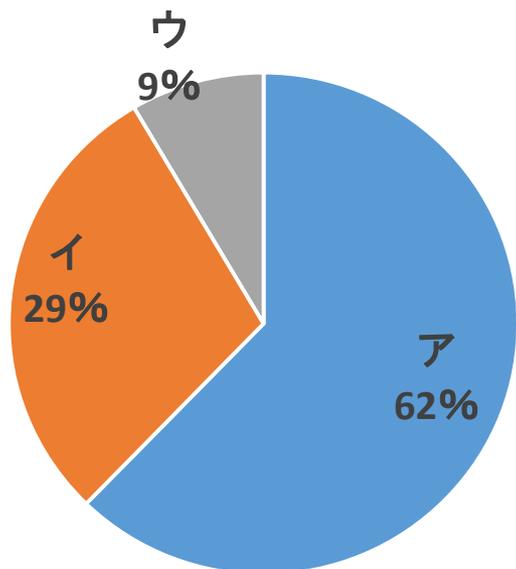
## 5. アンケートの作成と調査と報告

### 「住み慣れた地域で暮らし続けるために…」今、私たちができること 講座参加者アンケート結果と感想

すこやかに老いるための市民講座及び妙高市で実施した普及啓発講座について、参加者にアンケートを実施し、206人から回答を得ました。講座後のアンケートと感想をとりまとめましたので報告します。

#### <参加者属性>

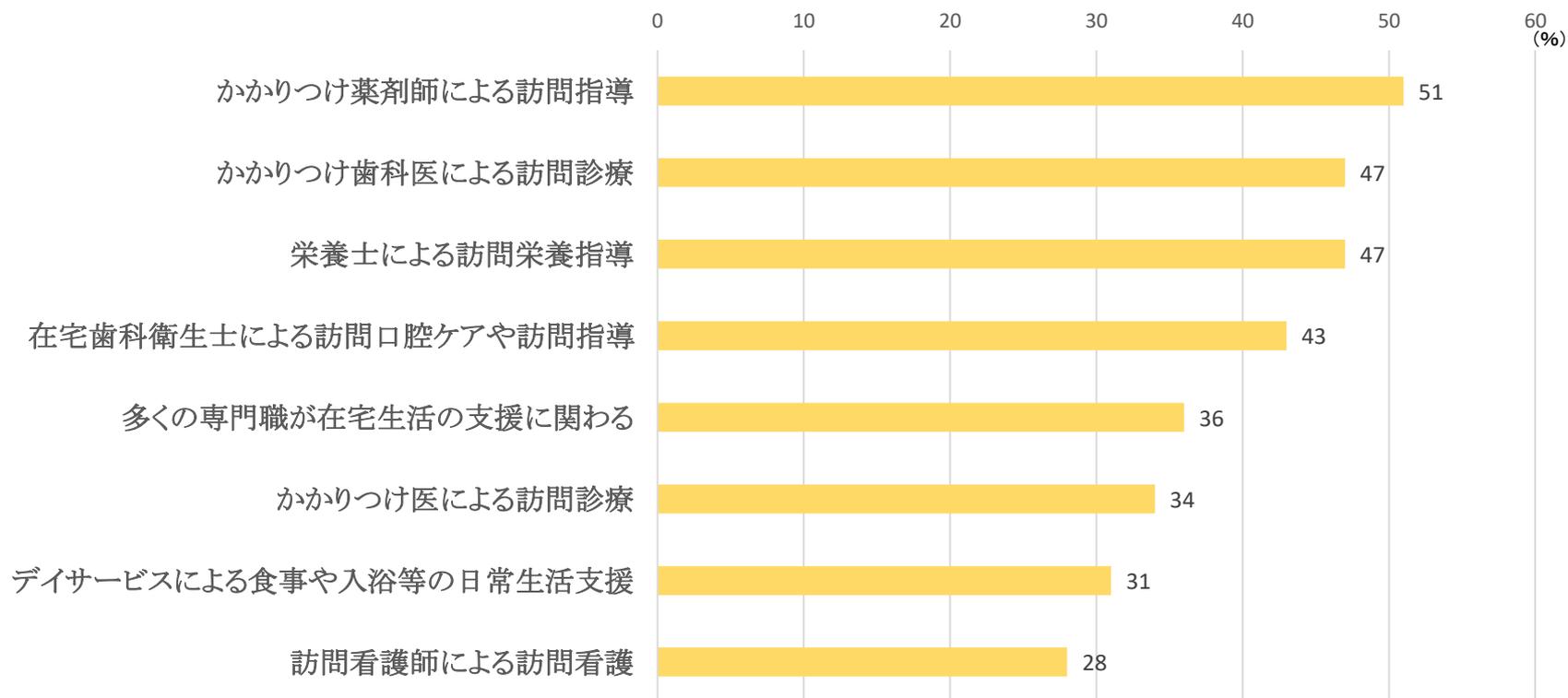
1. 居住地 上越市:89% 妙高市9% 未回答2%
2. 性別 男性 :21% 女性:76% 未回答3%
3. 年代 40歳代:2% 50歳代:3% 60歳代:22% 70歳代:46% 80歳代以上27%
4. 在宅医療や介護について困った時、  
地域包括支援センターに相談することを知っていましたか



- ア 以前から知っていた
- イ なんとなく知っていた
- ウ まったく知らなかった

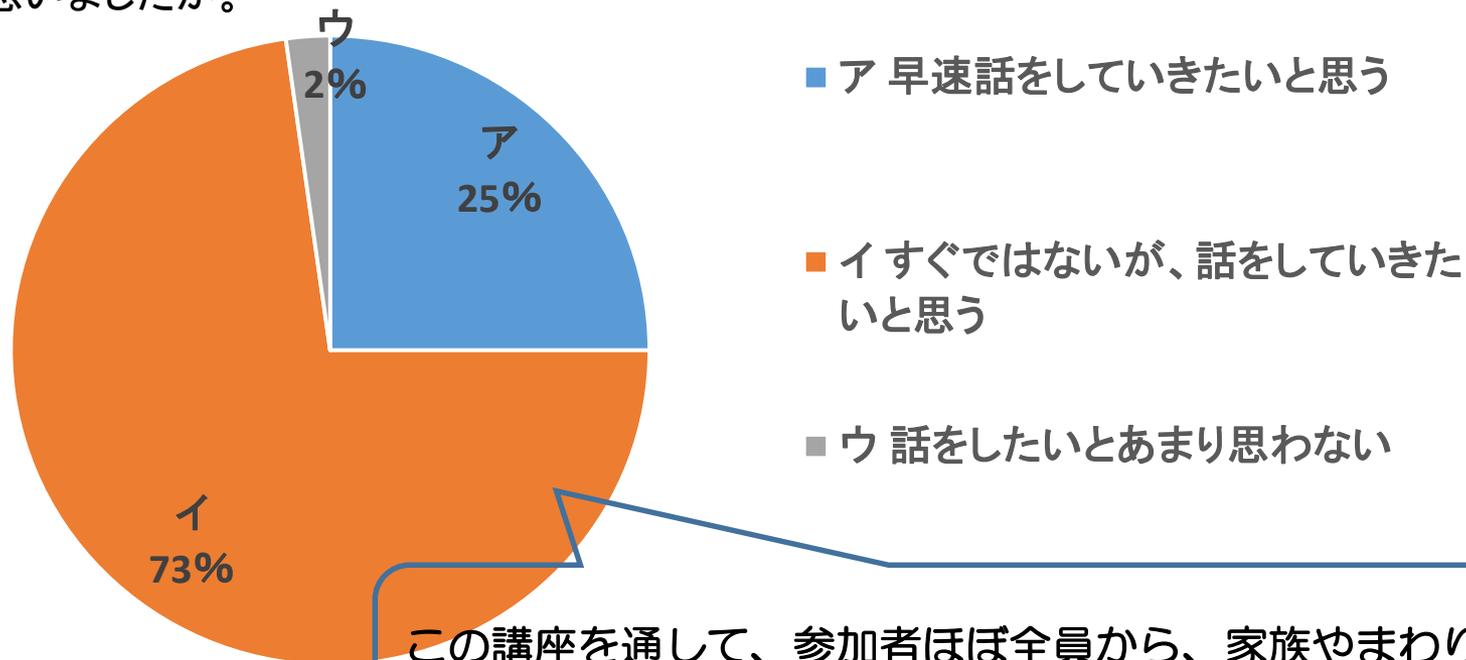
地域包括支援センターの認知度は高いが、9%（18人）の方は知らないとの回答であった。

## 5. 講座に参加して、初めて知った項目すべてにチェックをしてください



訪問薬剤師指導について初めて知ったという意見が多い。

6. 在宅医療や介護が必要になった時に備えて、家族やまわりの人と話をしていこうと思いましたが。



この講座を通して、参加者ほぼ全員から、家族やまわりの人と話をしていこうと考えてもらった。

#### 【参加者からの感想】

- ・ 普段考えないことを同じグループの人の意見も含めて色々なことや視点があることを気づかされました。
- ・ 自分の生活を見直すことが出来て良かった。
- ・ 講座に参加させていただき、今まで考えていなかった老後を考えさせてもらい、これからの人生に役立てたいと思います。

# Check 普及啓発講座 担当者が感じたこと

<p>良 か っ た 点</p>	<p>〈介護フェア〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・この地域で多職種一緒になって動いている雰囲気伝わって良かった。</li><li>・職域や実生活の中での実体験を交えた話で話が膨らみ、聞き手もイメージしやすかったのではないか。</li></ul> <p>〈市民向け講座〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・シナリオは話しやすかった。気楽に伝えたいことを話せた。</li><li>・各自の話も盛り込むことで、自然に雰囲気良くなる行えた。</li><li>・一般向けであればちょうど良い内容だと思う。</li><li>・包括が町内会でスライドを使用して啓発。参加者は熱心に聞いていた。包括側も、話しにくさや使いづらさは感じなかった。</li></ul>
<p>改 善 点</p>	<p>〈介護フェア〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・シナリオ通りだと単調になり、聞き手の印象に残らない。</li><li>・講座後、一般の方がどのように感じたのかが分からなかった。</li><li>・シナリオは市民講座やサロンで活用する方が、聞き手の理解度や質問・意見が出やすいのではないか。</li></ul> <p>〈包括研修〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・包括ごとの差が大きく、包括主体でシナリオを使用してもらうのは難しいように感じた。</li></ul>

## 1. 普及啓発用スライドの活用の促進

- ①各市の市民講座で活用する
- ②職能団体内および職能団体が行う市民向け啓発講座で活用する
- ③スライドを“がんぎネット”にアップし、活用しやすくする

## 2. イメージしやすく自分事として捉えられるように、スライドをバージョンアップしていく

- ・年代や地域に合わせていくつかスライドのバリエーションを作り、対象者に合わせた啓発が行えるようにする。

## 3. 地域包括支援センターの認知度を上げる

- ・包括を知らない若い世代向けへの啓発も検討する



## 提言(案)

上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会では、地域での暮らしを支える医療と介護の連携を推進するための仕組みづくりや人材育成、市民への啓発活動を行ってきました。

人口減少が加速するこの地域で、障害があっても加齢や疾病に伴う不具合があっても、ご本人の望む暮らしをできる限り実現し継続するために、医療と介護の専門職が協働し、ひとつのチームとして機能する事、これが協議会メンバーの共通の目標でありました。

3年間の活動を終了するにあたり、協議会メンバーだけではなく、行政・専門職皆が今後取り組むべき内容について、以下のように提言をまとめ、報告いたします。

本提言が、地域包括ケアシステムを取り巻く問題解決に向けた方策と、そのために必要な行政・専門職の在り方に係る議論の一助となれば幸甚です。

### 提言1 地域連携連絡票を多職種協働の共通言語として活用していきましょう

地域連携連絡票は、ご本人・ご家族が目標とする生活像や思いを共有し、チームとして取り組むために、専門職多職種チームの共通言語として必要不可欠です。

#### ■行政

- 行政は、介護支援専門員が作成する種々の書類（介護サービス特例利用、総合事業/予防給付プラン作成、在宅介護サービス/施設申し込み書類など）について、地域連携連絡票の添付もしくは代用で可能とし、介護支援専門員の書類作成の負担を軽減してください。

#### ■介護支援専門員

- 介護支援専門員及び地域包括支援センターは、担当する利用者全員の地域連携連絡票を作成し、かかりつけ医をはじめ、関わる職種に時機を逸することなく提供しましょう。
- 地域連携連絡票は、自らのアセスメント能力向上に有用であり、地域ケア個別会議などケース検討の資料として利用するだけでなく、作成スキルの向上のため、自律的に研修を企画・実行するよう努めましょう。

#### ■かかりつけ医を含む多職種

- かかりつけ医を含む多職種は、介護支援専門員らの求めに応じて、速やかに地域連携連絡票作成のための情報提供を行い、地域連携連絡票のアップデートを支援しましょう。

#### ■医療機関

- 医療機関は、入退院時の情報共有や地域連携パスの資料として地域連携連絡票を活用し、希望する在宅での生活をイメージし、その実現に向けた医療を提供しましょう。

### 提言2 リアルタイムでの ICT 情報共有ツールとして MC ネットをさらに活用しましょう

- 医療・介護の専門職は、チームでの情報共有と同じ目標に向かう医療/ケアの提供ができるように、それぞれが MC ネットをより一層活用していきましょう。

### 提言3 関わるもの全員が、職種をこえた信頼関係の構築に努めていきましょう

- 多職種協働は、お互いの信頼関係のうえに成立します。異なる職種の者同士が、顔を合わせる機会をもち、努力を惜しまず様々な場面で話し合い、相互の理解を深めていくことを継続して行っていきましょう。